

# アルパック ニュースレター

VOL.115

発行/2002年  
9月1日

ISSN 0918-1954



自然と文化の森構想「里山づくり体験～集まれ！自然林サポーター」：  
兵庫県立人と自然の博物館服部先生による猪名川自然林観察会（本文中に関連記事があります）

## 目次 contents

・都市イメージが人材を集め地域経済活性化へ導く .....	2
・新時代におけるコンサルタントの職能のキーワード .....	5
・尼崎でTMOが発足・スタートしました .....	6
・絞りのふるさとをめぐり .....	8
・生きよう今日も喜んで .....	10
・市民による「自然と文化の森協会」が誕生 .....	11
・瑞穂町での新たな都市農村交流活動の展開 .....	13
・廃棄物コンサルタント協会のワークショップに 参加しました .....	14
・高石羽衣まつりで演奏しました .....	15
・新人紹介 .....	16
・メディア・ウォッチ .....	17
・まちかど .....	18

# 都市イメージが人材を集め地域経済活性化へ導く

—閉塞打破への先進国型シナリオ—

〔大阪事務所／重本 幸彦〕

## キャッチアップされる先進国—改革が必須

『通商白書 2002』(平成 14 年 7 月、経済産業省編)は、「東アジアの発展と日本の針路」と題し、従来の通商(貿易)の枠を超え、グローバル化下での日本経済のあり方を示している。

その中で「(産業革命以降の分析の結果) …キャッチアップされる先進国(米国、イギリス、ドイツ)では、…国際競争力の低下に係る懸念が生じた。…各国は持続的成長への道を模索し…、(1)既存制度の変更に係る施策、(2)地域経済の自主性を高める…施策に…力を入れてきた」と述べ、例として、(1)では「規制緩和」などを、(2)では地域特性に応じた「産業クラスター形成」や「研究開発」を挙げている。

## 追いつける東アジアとの“住み分け”を

『白書』は、さらに、東アジアと日本との関係を分析し、NIES(韓国・台湾・香港・シンガポール)は日本の大都市集積型産業との競争力を高めているが、ASEAN4(タイ・フィリピン・インドネシア・マレーシア) や中国と日本との間には、このような関係には至っていない。後者の国々は、労働や土地の面で集約的な産業、つまり日本での地方都市立地型産業に近い発展にとどまっていると結論づけている。つまり、中国などの追いつけにより日本産業全体の空洞化が進むとの危惧に対し、『白書』は日本が大都市型産業(先進的産業)を中心に、これらの国々との“住み分け”の可能性を示している。

## 米のテクノロジーでは人材がテコに

近畿経済産業局では平成 13 年度に、キャッチアップされる面でも先進国であったアメリカの経験に学ぶ調査を行った(『大規模集客施設等を活用した地域活性化方策検討調査(地域経済活性化方策編)、平成 14 年 3 月』)。

この調査では、アメリカのテクノロジー

(ハイテク地域)の分析(図1)を通じ、優れた人材が大学などを足場に各都市の産業イノベーション(革新)を推進していることが浮上した。

例えば、短期間にハイテク産業が発達し全米でも起業に適した都市だと言われているテキサス州オースチン(州都)の経験は、“オースチン・モデル”として評価されている。この都市には多数の人材が集まったが、中心となったのはコヅメツキー博士である。同博士は、テキサス大学オースチン校の IC<sup>2</sup>(ICスクウェア=ICC)研究所を拠点に、多くの産業コーディネータを活躍させ、多数のベンチャー企業と雇用とを創出した“地域経済プランナー”として有名である。

さらに、他の都市でも、人材が持つウエイトが大きいたことが分かった。

## 人材の吸引力=都市のイメージ・魅力

では多くの人材が、どうしてこれらの都市に集まったのだろうか？

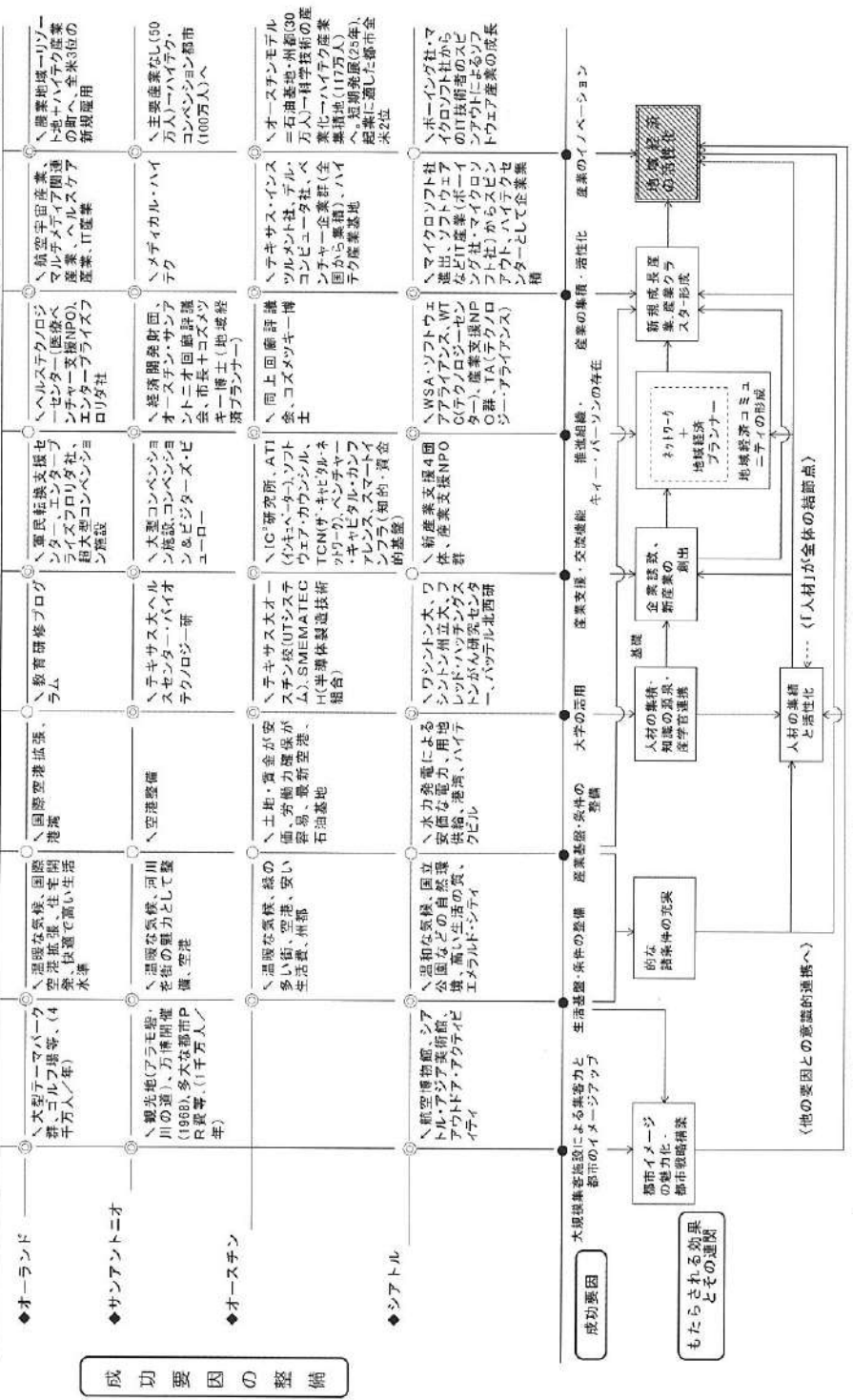
先のコヅメツキー博士は、カリフォルニアで成功した後、いわば第二の人生の場として“サンベルト(陽光のふりそそぐ地帯)”のオースチンへ住み良さなどを求めて移住したと言われている。フロリダ州オーランドでは大型テーマパークなどが集中立地し、テキサス州サンアントニオではリバーウォーク(水辺沿いの散策路)として運河を生かし、いずれも街の魅力を高め産業発展につなげている。

シアトルは、美しい海に囲まれ“エメラルド・シティ”と呼ばれる魅力ある街で、技術革新も進んでいる。

いずれもこうした鮮明な都市の魅力に加え、気候温和など、全米の中でも住み良い都市として評判である。

要するに、これらの都市では“良好な都市イ

図1 アメリカの諸都市の成功要因とその連鎖



関連する集客・交流施設

多機能型近郊交流拠点施設

高等教育・研究施設

産業支援・交流施設

コンベンション施設

新たな産業活性化への取組み

産業のイノベーション

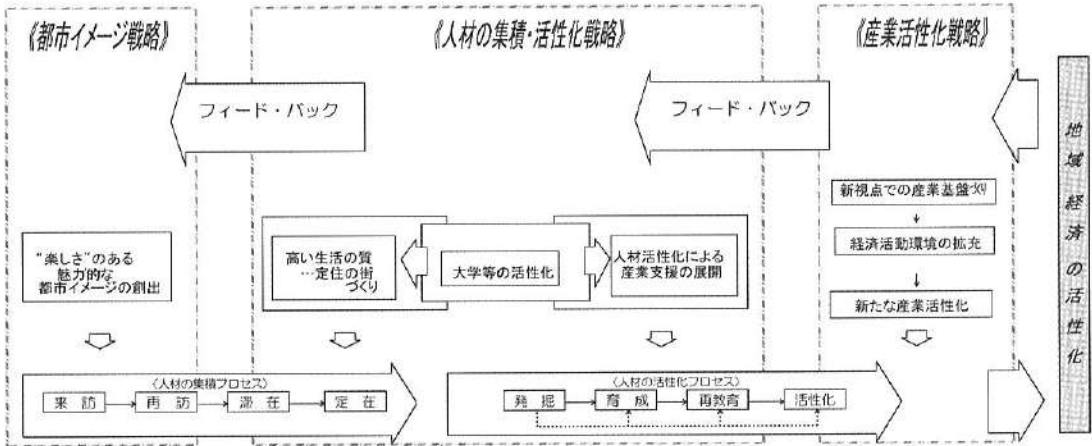
※ これらの集客・交流施設が、地域経済活性化を支え促進している。

従来の産業集約の取組み

従来の産業活性化への取組み

「大規模集客施設等を活用した地域活性化政策検討調査報告書〔地域経済活性化政策編〕平成14年3月 経済産業省 近畿経済産業局から。一部修正」

図2 都市の魅力アップから 地域経済活性化に至る戦略的シナリオ



〔大規模集客施設等を活用した地域活性化方策検討調査報告書（地域経済活性化編）平成14年3月 経済産業省 近畿経済産業局から。図は簡略化〕

イメージ”が、来訪・定住などのプロセスを経て多くの人材をその都市にひきつける契機となり、集まった人材を育成・活性化する大学やインキュベーションなどの仕組みを巧みに構築し、地域経済の発展に寄与させたといえる。

### 人材の集積・活性化プロセスが鍵

魅力ある都市イメージが自動的に地域産業活性化へつながる訳ではなく、大切なのは“人材”の集積や活性化を生み出す仕組みを、状況に応じて作り上げることであろう。

そのポイントとしては、まず人材の集積プロセスでは、定住の基盤となる“質の高い生活の質”の確保などが必要といえる。

また、人材を集め生かす場として、大学が注目される。アメリカの大学が産業協同などで活性化したのは、比較的最近と言われている。日本でも、今後、大学の活性化が急速に進む可能性がある。近年、社会人向け大学院機能などの都心回帰が始まっており、その促進が人材の活性化に役立つであろう。

さらに、活性化した人材（研究者など）と産業界とを結ぶ仕組み（産業コーディネータなど）の拡充の大切さが指摘されている。

従来の地域（経済）計画では労働力（主にプ

ルーカラー層）を対象にしてきたが、最近では知的な要素が地域発展の要因として重視される中で、今後の計画では「知的な人材」の問題を取り扱う必要に迫られている。

### “都市イメージ戦略” → “人材戦略”

#### → “産業活性化（集積）戦略”へ

以上の検討から、魅力アップのための社会資本や文化ソフトなどの充実により「(1)都市のイメージ・魅力」を高め、国内外からの「(2)人材を結集・活性化」し、イノベーションなどにより「(3)産業の集積と活性化」を呼び起し、“地域経済を活性化”するべきだとのシナリオが導かれる（図2）。

関西でも、公害都市などの悪いイメージを引きずっている都市は、産業経済的にも活力を失っている。

このシナリオは、人々の暮らしの面でのニーズである都市の魅力を高めることと産業経済の発展とを融合させるなど時代の要請にそったものであり、即効的ではないかもしれないが、やがては閉塞状況を打破し経済的な活性化に結びつける世界的に共通する先進国での基本的なシナリオではないかと思う。



# 新時代におけるコンサルタントの職能のキーワード



〔代表取締役社長／金井 萬造〕

## 時代の変化が新スタイルの構築を要請

21世紀に入り、コンサルタントをめぐる時代状況が大変化をとげている。

発注者である行政や地域社会からの要請も質の高いものとなり、コンサルタントがNPOやボランティア活動に参加するのが必須条件となりつつある。仕事の仕方も住民参加や体験・納得による合意形成と事業の推進まで含まれてきている。まさに、コンサルタントは仕事づくりの機会、業務推進の体制、組織経営の運営方式と、従来の方式からの全面的な再構築が求められている。

## コンサルタントにとって技術者の意欲が命

アルバックは技術者が組織を作って、今年で36年目がスタートしている。今後、技術者や構成員が自信をもって地域づくりに貢献し、自らも仕事のやり甲斐や生き甲斐を感じ、創造の喜びを共有するための職能はどう変化していくべきなのか、この時期に見直すことがとても重要になっている。

人間の集団として職能を発揮する観点から、技術者の意欲や意識改革がその出発点にある。

## 要請されている新しい視点とは

日常業務や地域社会との関係の経験から新しい視点を整理する。まず、日常業務での問題の解決や課題達成のための行動や関係者との協働など、連携や運営力が求められている。時代や地域ニーズからは、住民参加やNPO、ボランティアとの連携、自らをそれぞれの場においてみると行政の財政の厳しい中での実行可能な地域運営や経営システムの構築と事業推進への貢献が期待されている。以上の問題解決を図るためには、会社を越えた連携や異分野から構成されるチーム体制の中での役割をはたし、事業化を進めるが必要になっている。財政が厳しい中

での地域資源の付加価値を含むポテンシャルの発揮とスロータウンづくりの手法の適用など事業化の工夫も必要になってきている。

## 最近の業務の経験から考える

最近の経験や業務から考えてみたい。

財政の厳しい中での地域主権と地域の自律的運営をめざす市町村合併の取り組みが各地で進んでいる。合併後の地域の振興に結びつけるためには、地域の経営的視点が重要になっている。地域を元気にさせる人材育成や起業化やビジネスづくり、組織づくりが課題になっている。職能としてこれらを進めるコーディネートやプロモート機能が求められている。

民間の事業に着目すると企業の外部経済環境と連携して地域の振興に貢献する中で企業発展を位置づけ、市場分析と経営を基礎に地域資源の付加価値や生活の賑わいや潤い、やすらぎに貢献する力量の発揮が必要である。職能としては、事業の展開力、リスク回避対策、合意形成力が重要になってきている。

行政の仕事や民間の仕事のパートナーシップの発揮による地域の総合力の発揮が大切になってきている。

## 職能のたえざる「技術革新」と「連携」、「行動」、「協働による相互作用と総合効果」が新時代のキーワード

時代と地域の要請は、より深化し、これに対応してコンサルタントも必死で対応しようとしているのが現状である。「意欲」、「連携」によるより大きな地域貢献に向けて努力することがコンサルタントの新時代のキーワードになりつつある。実践を通しての証明が重要になってきている。

# 尼崎市でTMOが発足・スタートしました

〔大阪事務所／山本 昌彰〕

## TMO設立と記念式典

去る6月10日（月）、尼崎市でTMO会社、「(株)ティー・エム・オー尼崎（代表取締役 秋岡義法）」が発足しました。この会社は地元のまちづくり会社に市等が出資し、第3セクターの形としたもので、この度、中心市街地活性化法に基づく「TMO」として新たに再スタートしています。

これを受けて、7月18日（金）、そのTMO設立記念式典が行われました。記念式典は、12年前に火災によって焼失した長崎屋跡地において、火災犠牲者の『慰霊祭』として営まれました。式典では、長年空き地であった長崎屋跡地でのマンション建設が決まったこともあり、TMO等地元関係者は改めて犠牲者の冥福を祈り、「安全で快適なまちづくり」に誓いを新たにしました。

## これまでの経緯

当TMO会社の活動範囲となる尼崎市中心市街地内「中央・三和・出屋敷商店街」（以下「中三出」という）は阪神尼崎駅から出屋敷駅まで約1km連なり、商店街、市場など15商業団体、約750店からなる一大商業集積地であり、その規模は阪神間で随一とされています。中三出では、「(株)ティー・エム・オー尼崎」の前身である地元出資のまちづくり会社（「尼崎中央・三和・出屋敷まちづくり(株)」）が平成8年に設立され、以後、ポイントカードやイベントなどを中心に、地元商業者を主体とした活動が行われてきました。



TMO設立記念式典（出典：日本経済新聞当日夕刊）

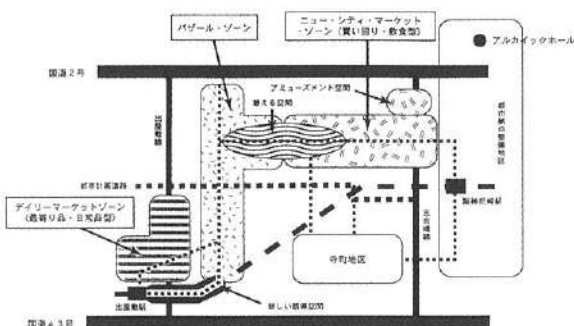
しかし、たとえ規模が阪神間随一でも各商業団体、各店舗がバラバラになったのでは、そのスケール効果は活かせられません。それどころか、その規模が「足かせ」となることさえあります。幸い中三出の場合、地元が一緒になってまちのことを考え、議論するという素地ができており、足りないものは、それらを統合する「一本の糸」という状況でした。

地元では、その「一本の糸」をつくるべく、中三出の「まちをひとつに」をスローガンに掲げ、まちの活性化へ向けて「地元自ら動く企業体」＝TMOの設立を目指したのです。そのために、まず、各商業団体の代表者たちは、「TMO設立委員会」さらに「TMO構想策定委員会」を立ち上げ、将来のTMO事業や組織体制について、本音で話し合い、まちづくりやそれを担うTMOのビジョンを固めていきました。

アルパックは、このTMO設立にあたって、事業内容等の検討及び「TMO設立委員会」等の運営支援（尼崎市）やTMO構想策定業務のお手伝いをさせていただきました。

## TMOの事業内容

こうして、TMO会社、「(株)ティー・エム・オー尼崎」が本格的に立ち上がりました。この会社は、基本的には前身のまちづくり会社の社風や経営方針等を継承しており、基本コンセプト「[拠点性]と[快適性]の確保による地域一体のにぎわい共生まちづくり」へ向けて、15商業団体が一丸となるべく活動を進めようとし



尼崎中心市街地の基本イメージ  
（中心市街地活性化基本計画）



中央・三和・出屋敷商店街のポイントカード  
 ています。

このTMO会社の事業内容は、現在のところ、まちづくり会社のポイントカード事業等の他、ホームページ運営（※URL：<http://www.genki.or.jp>）や共同宅配事業などの「ソフト事業」が中心となっています。いわゆる『目玉』となる収益的事業が本格的に動き出すにはまだまだこれからというところかも知れません。

### TMOの存在意義

現在、全国でTMOは約250（2002年8月現在）近くありますが、その多くが人材や資金等の問題により、十分な活動が出来ていないと言われています。TMOが「中央」から補助金等をもらうための『パイプライン』のように考えられ、“間違った(?)” 解釈や使い方がされていることがその原因のひとつといえるのではないのでしょうか。また、こうしたところでは、まず「TMOありき」であったために、ビジョンや内容が伴っていないからだと言われています。

しかし、TMOだからといって、何か特別なこと（事業）をしなければならないとは思いません。とくに尼崎の場合、今後の成否のカギとなるのは、この商業集積地がひとつにまとまるかどうかであり、TMOの存在意義は、まずはそこにあると考えます。

今回の調査を通じて、まちの活性化には、とにかくまちの人たちの中心市街地に対する思い



「TMO構想策定委員会」の様子が大切であり、まずは「その気にさせる」ことが重要であるということを痛感しました。これができればTMOの役割も半分は達成されたようなものと思うのです。TMOは、それ自身が事業の主体となることより、むしろ、まちの「雰囲気」や様々な人々が活動するための「仕掛け」をつくるきっかけであると考えます。

### 今後への期待

尼崎に限りませんが、「中心市街地活性化」というものは終わりがなく、とても長い活動です。そして、今回のTMO設立により、「まちをひとつに」を目指し、まずは確実にその第一歩を踏み出しました。しかし、TMOの手腕が本当に試されるのはこれからです。

TMO関係者の皆様方には、単にTMOの事業収益にのみ振り回されるのではなく、本当の「まちの統合・活性化」に向けて活躍されることを期待したいと思います。そして、我々コンサルタントもできる限りの支援を続けていきたいと考えています。



現在の中央・三和・出屋敷商店街

# 絞りのふるさとめぐり

〔名古屋事務所／河野 麻利〕

名古屋市緑区にある有松駅の南、旧街道沿いには、昔の繁栄と日本建築の美しさを今に伝える家屋が軒を連ねています。

有松の町は、江戸時代のはじめ、慶長13年(1608年)に、有松絞りの開祖竹田庄久郎をはじめ8人の移住者によって誕生しました。その後、尾州藩が有松以外の土地での製造卸売業を禁じ、有松絞りを藩の特産品として保護したことが支えとなり、有松絞り400年の歴史が始まりました。そしてその頃より、一貫して絞り生産を業とし、町全体が絞り業者のみで形成されて来たため、江戸時代の町屋建築が昔のまま多く残されているのです。

この町並みは名古屋市の町並み保存指定第1号として、また全国町並み保存連盟の発祥地としても知られています。特に、服部家住宅は愛知県の有形文化財に指定され、岡家・小塚家・竹田家住宅は名古屋市の有形文化財に指定され、その価値が認められています。

足を踏み入れると、旧街道の両側に並ぶ日本家屋に挟まれ、異空間に居るような趣が感じられます。また、自分の持つデジタルカメラや、道を通る自動車がとても奇妙なもののように見えてきました。

## 有松・鳴海絞り会館

有松・鳴海絞り会館では、数多くの絞り製品の展示販売と、歴史的・工芸的に価値のある製品や資料の展示、実演が行われています。

誕生から約400年の間に創造、工夫された有松・鳴海絞りの加工法は約100種にも及び、日本の絞り製品のうち、約90%以上を占めています。また、絞りはすべて手作りなので、同じ柄を作っても絞る人の力加減によって染色の微妙

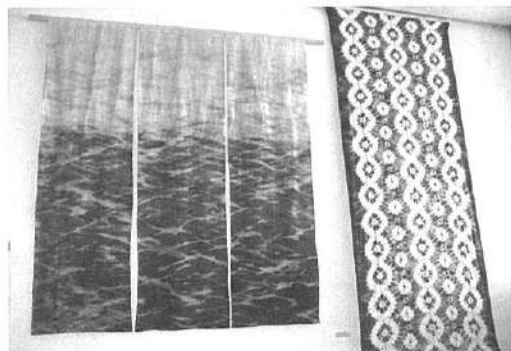
な差が生まれます。販売コーナーには、様々な色や模様をついた、浴衣、手ぬぐい、Tシャツ、帽子等の製品がところ狭しと並んでいました。また図案から型彫り、絵彫り、絞り加工、染色、糸抜き、仕上げまで、すべて専門職の手を経て分業で行われます。ここでは糸抜きの実演が行われていましたが、何十年もの間作業を続けているプロの技にくぎづけになり、ものづくりの深みを感じました。

## 有松山車会館

有松には、『布袋車』『唐子車』『神功皇后車』の3輛の山車があり、いずれも精巧なからくり人形を乗せた豪華なものです。これらは毎年10月第1日曜日に開催される「有松祭り」にかつぎだされ、旧東海道の面影を残す町並みを3輛の山車が練り歩きます。山車のすれ違いや方向転換の際の迫力や、山車の上で練り上げられる



有松の町並み



館内に飾られている絞り製品





久田家の茶室

からくり人形の演技はこの祭りのみどころとなっています。また、最近では山車とからくり人形は、6月に行われる「絞りまつり」にも展示されています。

この3輦の山車は名古屋市が「有形民俗文化財」として指定しています。

#### 絞りのひさだ

今回私達の案内をしていただいた久田さんの絞り製品販売店を拝見させていただきました。この久田家は元禄年間より続いた久田本家の分家にあたり、旧建物は明治初期に建てられました。以後約120～130年経過した後平成5年8月末から平成6年1月末に改築し現在の建物が完成しました。なかでも茶席の造作並びに寸法は、現在の表千家尾州久田流家元・当主下村氏の3代前の西行庵が作事していた<sup>なげし</sup>当時を再現させたそうです。特に長押、床柱、縁板等はそのまま使用されています。このような茶席は、真夏の暑さや忙しい日常を忘れ、心を落ち着かせることができる空間でした。

#### 手打ちめん処 寿限無（ジュゲム）茶屋

先に述べましたが、有松の町に並ぶ、県の重要文化財の一つに服部家住宅があります。この服部家に並んで、昔番頭さんが住んでいたという建物が、ほとんど当時の状態を残したまま、



手打ちめん処 寿限無（ジュゲム）茶屋

現在は、めん処となっています。店内には落ち着いた日本建築の雰囲気が広がり、その中で食べるうどんは、特別に美味しく感じます。このような歴史的建築物を活用したお食事処が増えると、町はより活性化するのではないかと思います。また、隣接して立派な蔵が残されており、現在服部氏はその保存・活用方法を検討中だそうです。

今回私達は、白壁アカデミアの講座「手の知」という、昔からのものづくり職人に会い、その技を知ることが目的とした勉強会の中で、この有松を訪れました。このような歴史的町並みは落ち着きと潤いを感じさせてくれるとともに、生きた歴史資料として貴重なものです。今、私達がこのような貴重なものに出会うことができるのは、ここに住んできた人々の、伝統文化を伝え、保存しようとする意思があったからだと思います。この町を訪れ、伝統的なものづくり文化を知るとともに、歴史的な町並みを目の当たりにして、町を保存しようとする地元の人達の思いに少しでも近づけた気がします。今は様々な情報が簡単に手に入るような時代ですが、そんな日常を離れ、のんびり足を動かし、技・人・まちと直にふれあうことの大切さを感じることができました。

## 生きよう今日も喜んで

〔取締役会長／三輪 泰司〕

8月のお盆休み前、全所員参加で、京都事務所の大改装を実行しました。平成4年(1992年)9月に、8階から6階に移ってからちょうど10年。作業環境優先で、コンパクトに整備しました。

アルバックでは会長室は京都事務所に置いて「本社」の象徴的機能を果たしていますので、断続的でしたが、2週間ほど働き、10年、いや創業以来35年、たまりにたまった資料類をひっくり返しました。整理したとはよう言いません。ひっくり返すだけです。

なんでこれが事務所にあったのか不思議ですが、大事な発見がありました。

平澤興先生の「ロータリー創立記念日に思う」という講演録と、語録「生きよう今日も喜んで」です。両方とも仕事に直接関係のない小冊子ですが、行動の指針にしておりましたので、自宅にも見つからなくて、気に掛かっていた文献です。

講演録は1982年9月2日、京都洛北ロータリークラブの創立9周年記念例会での特別講演を、同クラブが刊行したものです。その少し前の5月23日に、京都東ロータリークラブで、「クラブ創立記念日に因んで」と題して講演をして頂きました。どういうわけだったか忘れましたが、私がスピーチのお世話をする役になり、テープにも取らせて頂きました。お話しの内容は同じです。ただ、こちらはホームクラブ向けで、一般向けでない部分があるのと、大きな和紙に要点を墨書されて、お話しになったのが印

象的でした。お願いしてその紙を頂きました。

平澤先生は1989年6月17日にお亡くなりになりました。2日前、クラブ例会でお会いし、帰りに握手して頂いた柔らかい手の感触が忘れられません。

平澤先生は、1957年4月、京都大学医学部長の時、京都東ロータリークラブに入会され、その年の12月、京都大学総長に就任、1963年総長を退任された直後、1964年に会長、そして、当時の第365地区1967/68年度ガバナーになりました。私が入会したのは、その後の1971年11月です。前田敏男先生と岡野組の岡野武司社長のご推薦を受けたのですが、平澤・前田・奥田・岡本と元・現総長が4名もおられてびっくりしました。

平澤バスターガバナーは、2650地区だけでなく、日本中で名ガバナーとして敬愛されていました。「ガバナーを辞めたら一会員」と皆の中に混じって談笑され、和気藹々でした。

実は、平澤先生とは大学へ入った時からご縁がありました。私達は宇治分校の第1回生で、教養部長即ち分校主事が平澤先生でした。京都大学をそっくり宇治キャンパスへ移すと意気軒昂たる演説をされていました。教室は弾薬庫のまま、道は泥んこでしたが、桜並木に松林が広がり、池もあって素晴らしいキャンパスでした。ところが朝鮮戦争が始まり、6月には警察予備隊が進駐してきて、敷地の半分を占領し、平澤先生の夢はあえなく消えてしまいました。

というわけで、1995/96年度、創立40周年の会長になった時、先生に頂いた墨書から、4と0を頂戴して、シンボルマークに使わせて頂き

ました。

京都造形芸術大学もご縁です。平澤先生は母胎の京都芸術短期大学の初代学長です。ご就任になる時、クラブでいろいろお話しを聞いていました。大学には「興心館」という建物もあります。

京都事務所にある平澤先生の論語・学而篇からの書は、クラブで額装して頂いたものです。

講演録にも引用されています。「生きよう今日も喜んで」とともに、先生のお好きな言葉です。私はこの「思う」は思索し、考えること、「学ぶ」はまねるとも近く、実践することと解して行動指針にしてきたわけです。先生はちょうど1900年のお生まれでした。だから私が京都東ロータリークラブに入会させて頂いて、ご縁が再び結ばれた時が71歳で、今の私の歳です。

この未曾有の混迷の時代に、誤りなき道を求めて頂くため、次世代の皆さんに、先達の息吹を伝えるのは私達の責務であると思います。

会長室で、紙くずと一緒に置いて、申し訳なかったのですが、“ひっくり返した”機会に適切な場所で、皆さんの目に触れるようにしたいと思っています。



選任された畑会長の挨拶

## 市民による「自然と文化の森協会」が誕生

【大阪事務所／馬場 正哲】

尼崎市が「協働型のまちづくり」として推進してきた「自然と文化の森構想」を担う、市民による「自然と文化の森協会（以下、森協会という）」が、この5月26日に設立されました。まだ任意の団体ですが、設立趣意書では次のことをうたっています。

猪名川と藻川が流れるこの地には、かつて川が育む豊かな大地と自然がありました。

その大地や自然から、文化が生まれ、心安らぐ暮らしが生まれました。

言い換えれば、この地は、自然や文化に満ち溢れた「森」です。

木登りをしたり、川で魚を追いかけたり、田んぼや水路で泥んこになったり、お祭りではしゃいだり、「森」は私たちに、色々なことを教えてくれました。

言葉では言い現せない大切なことを知らせてくれました。

その森は、時の流れとともに姿を変え、私たちは大切なことを忘れかけていました。

今、私たちはこの「森」の持つ大切さに気が付きました。

私たちは、その大切さを多くの人に知ってほしいと思っています。

この「森」の自然や文化を、子ども達に伝えていかなければならないと思っています。

「森」を受け継ぎ、育み、そして次の世代へ引継ぎたいと考えています。

このような思いを実現するため、自然と文化の森協会を設立することをここに提案します。

平成14年5月26日

自然と文化の森協会発起人一同

## 協働型のまちづくりをめざして

平成5年に尼崎市が設置した尼崎市文化懇話会提言で、「農業公園、田能遺跡を一带とした自然と文化の森の整備」があげられ、それを受けて、市は平成7年に「尼崎市文化振興ビジョン」を作成し、田能資料館の整備充実や猪名川自然林などを含む「自然と文化の森整備構想の策定」が位置づけられました。

平成8年3月には、尼崎市の市制80周年記念振興事業として位置づけています。その後、平成10年度に市民による自然と文化の森構想の検討グループとして、「自然と文化の森を楽しむ会」が結成され、以降、市と楽しむ会との協働によりさまざまな活動を行ってきました。

## 実験的実践活動を通して構想素案を提案

市と楽しむ会は、構想素案について話し合うワークショップの他に、対象地域で、水辺や農業、自然、歴史・文化などの各分野で、多くの市民が参加する活動を実験的実践活動として企画・実施し、その成果や課題を構想素案に反映させるように努めました。

そして、平成12年11月には、「自然と文化の森フォーラム」を開催し、地元住民の方々をはじめとする多くの市民の参加を得て、それまでの活動の報告と、今後の対象地域の姿などにつ

いて話し合いました。こうした取り組みや活動を踏まえて、平成13年3月に構想のたたき台として「構想素案」が作成されました。

## 共有の「夢」が構想に

平成14年度、市は「自然と文化の森構想策定懇話会」を開設。広く会員が参加するなか、素案を基に『自然と文化の森構想』を、市の構想として策定しました。

市制100周年を目標年に、地域の魅力ある宝や資源を掘り起こし、将来像を(1)森と遊び(2)水辺と子ども(3)地域と食と農(4)歴史ロマンとにぎわい(5)川の風景と散策(6)新しいお祭りとコミュニティビジネス(7)すまいと暮らし(8)みんなで話し合うの八つの「夢」として設定しています。

推進に当たっては、市民・事業者・市などの協働を基本に、十分に話し合い、地域の課題や将来の「夢」を共有して、市民参加などの取り組みの成熟度に合わせながら、持続的に推進することとしています。

## 森協会への期待

この市民が立ち上げた森協会は、市が公募した「楽しむ会」が母体で、自立した市民組織として発足しました。取り組んでいる事業は次の通りです。



尼崎ミレニアム遺産「田能の里芋」の栽培グループの皆さん



メダカさがし隊



○残された「猪名川自然林」の保全と活用の里山づくり体験（自然林サポーター）や調査

○まだ残る「農空間」の保全支援のための農作業体験講座（里芋栽培・農業学習）

○猪名川・藻川・農業水路・ため池などの「水辺」の保全・再生のためのメダカや生物の調査、飼育ボランティア

○地域の「歴史・文化」の再発見と伝承に取り組むタウンウォッチング・資源マップづくりなど  
森構想実現に向けた、名実ともに整った活動が期待されています。

#### 市民主体のまちづくりの試行が続きます

しかし、この森協会は構想の実施機関としての位置づけも体裁も付与されていません。拠点もなく、未熟な組織活動からの出発です。既存の地縁組織との調和と連携や環境団体等との連携など課題は山積みです。また、行政との協働の仕組みも未整備です。これからも、活動を通してこれらの課題を切り開くことが必要です。森協会のミッションを自覚共有し、自立の活動と協働の具体化に立ち向かっていかなければなりません。

この成否は、ネットワーク時代のまちづくりの大きな課題と言えます。

#### 瑞穂町での新たな都市農村交流活動の展開

##### ～共育の里づくり事業～

【京都事務所／藤 正三】

京都府丹波地域の瑞穂町では、都会の人と農村の人が知恵と力をあわせて、田んぼや畑などの農業環境、森林や川、ため池などの自然環境、祭や工芸などの伝統文化などを府民の共有財産

として共に守り、育んでいく府民ぐるみの取り組み、「共育の里づくり事業」を平成13年度から行っています。

共育の里づくり事業は、「協働」「継続」「共生」をキーワードに、都市と農村との協働作業で、継続的な都市農村交流活動を展開し、人と自然、都市と農村とが共生できる魅力的な里づくりを進めていく京都府の事業です。

瑞穂町の大朴<sup>おほせ</sup>・八田<sup>はった</sup>地域において、共育の里づくりに関心のある都会の人と地域の人を募り、約30名で「瑞穂町共育の里づくり事業推進協議会」を設立し、協議会が中心となって、遊休農地の活用など、地域の課題を解決するために取り組む活動プランを作成しました。この活動プランは、「農作業を体験・応援しよう！」「自然環境の学習と環境の保全をしよう！」「伝統文化の伝承をしよう！」の3つをテーマに、遊休農地の解消に向けたそばづくりや米づくりをはじめ、パードウォッチングや森林浴などの自然環境学習体験、しめ縄・竹かごづくり体験、炭焼き体験などの伝統文化体験などを、年間を通じて継続的に取り組む計画になっています。

瑞穂町では今年度からこの活動プランをもとに実践活動に取り組んでおり、これまでに田植え、そばの栽培予定地である遊休農地の草刈りや排水対策、そばの種まきなどを月1回程度の割合で実施してきました。

今後は9月下旬に稲刈り、11月にそばの収穫、年末には稲わらを使ったしめ縄づくりやそば打ち体験など、様々な活動を実施することを予定しています。

地域の課題解決、地域の環境保全、地域の活性化に向けて、都会の人と農村の人のニーズを上手く活用し、共に知恵と力を出し合って楽しみながら取り組む「共育の里づくり事業」は、新たな都市農村交流活動としてますます重要になってくると思われます。今後は瑞穂町に限らず、今後は瑞穂町に限らず、府内の各市町村、府外へと、このような活動の輪をどんどん広めていくことが求められます。

瑞穂町の共育の里づくりに関心のある方は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：瑞穂町共育の里づくり事業推進協議会（事務局：京都府瑞穂町産業振興課）

TEL 0771-86-1908

FAX 0771-86-1349

E-mail sangyo@mail.joho-kyoto.or.jp

京都府 共育の里づくり事業ホームページ：

<http://www.noson-kyoto.jp/sato/index.html>



共育の里づくり事業でそばを栽培する遊休農地  
(約10アール)



遊休農地を耕し、そばの種まきに取り組むメンバー

## 廃棄物コンサルタント協会のワークショップに参加しました

〔大阪事務所／長澤 弘樹〕

入社して以来、ばたばたとした日々を送ってきました。ようやく一息ついた7月に、廃棄物コンサルタント協会主催のワークショップに参加しました。

参加者は全国のコンサルタント会社から来ており、総勢20人ほどでした。スケジュールは、初日が基調講演とそれを受けてのワークショップ、二日目が横須賀市リサイクルプラザの施設見学です。施設見学も「ごみ」関係のワークショップも初めてで、新しい発見がいろいろとありました。

講演およびワークショップのテーマは『資源循環型社会の構築にむけたごみの収集運搬』でした。ワークショップは3班に分かれ、2時間ほど行いました。これからの収集運搬を考える上で重要なことは何かについて話し合いました。私のいたグループで論点になったことは、大きく三つあります。一つ目は経費のこと、二つ目は市民への負担のこと、三つ目はごみ行政における収集運搬の位置づけでした。

中でも、議論が紛糾したのは市民への負担をどこまで求めるかです。分別収集の実施を前提とした場合に、排出者に負担をかけるのだから回数を増やすなど利便性を高めるのは当然だという意見と、ごみ減量のための政策なのだから、ある程度市民負担が増えるのは仕方がないという意見が最後まで対立したままでした。

これは、市町村の財政状況や住民の協力度合い、地域のごみ問題への意識、ごみ分別の状況など、対象地域の具体的な情報がなにもない状況での討議であったために、どうしても一般論かつ抽象的な議論になりやすかったからでしょう。同様の議論をする機会があれば、具体的な



二日に見学した横須賀市リサイクルプラザ  
出典：パンフレット

状況を設定できないか、あるいは個別の方針ごとに導入の前提となる条件は何かということも併せて検討したいです。

見方を変えれば、収集や運搬の方法に詳しいだけでは力不足だということです。これからはごみ収集運搬の計画を立てる場合でも、地域の特性を把握した上で、収集運搬にとどまらず、「ごみ減量」「ダイオキシン対策」「住民の利便性」「衛生的な対応」といった関連要素に優先順位を付け、その実現のための収集運搬を構想する必要があるのだらうと考えました。

ワークショップの後はお待ちかねの懇親会です。こちらでは、当日のテーマにこだわらず、カラス対策から減量政策まで幅広く、ごみ全般の話で盛り上がりました。普段なかなか他社の人たちと知り合う機会はありません。同じようにごみの問題に熱心に取り組んでいる人たちとコミュニケーションできて、とても刺激的な2日間でした。



夜更けの高石に響くジャズ

## 高石羽衣まつりで演奏しました

〔大阪事務所／絹原 一寛〕

### 会社の仕事で演奏！？

入社数ヶ月後の某日の昼下りの出来事。

「君、トランペットやってるんよね？」

「はい」

「じゃあ、今度高石でイベントあるんだけど、出演してくれへん？」

アルパックが初回以来運営のお手伝いをさせてもらっている高石市の「羽衣七夕まつり」のメインステージに、出演者として参加するという機会を得ました。今年はジャズのバンドが急速出演できなくなり、実行委員の方々も頭を悩ませていたそうです。そこで私が週末毎にストリートで演奏したり、ライブハウスに出演したりしていると社内で話したことから、白羽の矢が立ちました。まさか会社で出演依頼が来るとは思ってもいませんでしたが…。

### 高石の夜は熱かった

祭りは地元高校の吹奏楽部のオープニングパレードで幕を開け、ストリートダンス、市民吹奏楽団、そして地元のギターバンドなど、幅広い年齢層でかつ色々なジャンルのバンドが出演。私たちは初参加にもかかわらず、夜8時過ぎからの最後のステージを任されることに。しかしジャズを聴くにはいい時間帯。Moon River



熱気のコもった演奏はライブならではの

をはじめジャズのスタンダードナンバーを5曲演奏、非常に楽しいひとときでした。今回は曲の大まかな構成だけを決め、後は全部即興でやりましたが、これが功を奏したようで、聴き手の方々が盛り上がりどころでは拍手を贈って下さり、私たちの演奏にも熱がこもり、アンコールの拍手も。

### 自分が楽しまないと損

平野のまちづくりを考える会の方が「まちづくり言うても、自分らがおもしろいことをやらなあかん」とおっしゃっていましたが、今回のような思いがけないきっかけで地域のイベントに参加させてもらって、しかも「自分が楽しめる」というのは本当に贅沢だと思いませんか？

### 結びつけること

〔大阪事務所／和田 裕介〕

この度、大阪事務所の建築計画部に配属になった和田裕介です。

私にとってデザインとは、普段は別々に存在するような事柄を、面白く結びつけてやることだと考えています。建築においても同様です。例をあげると、「食事をする」「風を感じる」というような単独の行為に対し、物理的な構造を与えることで両者を結びつけます。この場合だと「風を感じながら食事ができる場所」となりますが、異なる事柄同士が会うことにより、それぞれの良さが引き出されるような関係づけを重ねていくことが、建築をデザインすることだと考えています（この例に「景色を眺める」という事を含めてもいいかもしれません）。

このように考えていくと、建築のカタチをつくっていくことと、まちづくりや地域づくりを進めていくことは、ほとんど同じような行為で



あるように思えてきます。つまり、建築もまちづくりも、その場所、地域における、人や物、環境、生活、土地…といった多くの要素を、互いに気持ち良く結びつけていくことが大切で、共に関係性を紡いでいく行為だと感じるからです。

まだまだ、わからないことだらけで、実戦経験もなく、加えて知識も乏しい自分ですが、一日でも早く皆さんと対等に議論できるように努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### 「LRTによる都市づくりに関する講習会」のお知らせ

土木学会関西支部が主催する標記の講習会が、下記の要領で行われます。アルパックは、これを企画・運営する調査研究委員会の事務局を務めています。具体的な内容及び申込方法は、アルパックのホームページ（URL：<http://www.arpak.co.jp>）をご覧ください。か、土木学会関西支部（06-6271-6686）かアルパック大阪事務所（担当：森脇、田口、澤田）にお問い合わせください。

■日時：平成14年10月11日（金）

午前10時～午後5時

■会場：建設交流館8階

グリーンホール（大阪市内）



紹介者／京都事務所 石井 努

ということで村人が示し合わせ、事故ということ  
 ことで川へ落として殺してしまう、というよ  
 うな信じられないことまでが実際の生活の中  
 で起こったこととしてふれられている。

現代は、人間の生活がモデル化され、様々  
 な分野で社会システムが発達することで、個  
 人の生活や権利というものがある程度保障さ  
 れているが、この本が対象としている時代は  
 そうではない。昔の生活は、「生きる」という  
 ことに関して非常にシンプルであるが、シ  
 ンプルであるが故に自らの命に関わるような事  
 柄や、人生にとってとても重要な事柄に、い  
 とも簡単に遭遇していたのではないかと感じ  
 た。そういう意味で、かつての日本人がもっ  
 ていた、たくましさ、実直さといった面を強  
 く感じるができる本である。

また、現代は人間の生活がモデル化される  
 ことで、生きていく上において「当たり前」と  
 思っていることがとても多くなっている。こ  
 の本は、そんな「当たり前」に対して優しく  
 も鋭い棘をつきつけているような気がする。

最後に、氏は、日本の至る所を歩いて旅し  
 た学者であるということでも知られており、  
 異なる文化をもつ者同士の対話、という面  
 においても非常に興味深い本である。

## 忘れられた日本人

宮本常一著



日本各地を  
 訪ね、日  
 本全国の  
 さまざまな  
 地方を、  
 訪ねた



164-1  
 岩波文庫

### 「忘れられた日本人」

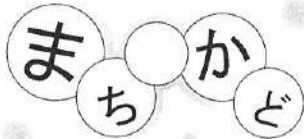
○著者：宮本 常一

○発行：岩波文庫

著者宮本常一氏は日本各地の民間伝承調査の  
 ために、地球を4周する約16万kmを旅したと  
 いわれている昭和期の民俗学者である。

この本は、氏の代表作ともいわれる著書で、  
 「無字社会の生活と文化」を対象に調査された成  
 果をまとめたものである。こう紹介すると、と  
 ても難しく肩肘張って読まねばならないように  
 感じてしまうが、実際は昭和のはじめ頃の高齢  
 者が、これまでどのような生活を送ってきたか、  
 インタビュー的にまとめたものである。

具体的には、日本昔話なんかではお馴染みの  
 狸のいたずらや、かつて自分自身が子どもの頃  
 に人づてに聞いたことがある、「みみずにしよん  
 べんをかけると…」(男性諸氏は、たぶんかなり  
 の確率でご存じでは?ご存じなく気になる方は、  
 是非この本のご一読を)という身近でコミカル  
 な話が掲載されている反面、狭い道で武士の刀  
 に農民が少しふれただけで、互いに刃物を向け  
 合わねばならないような状況に追い込まれたり、  
 悪い役人がどうもしゃくにさわってならない、



## 魅力的なウォーターフロントをつくる～シドニーの紹介

〔大阪事務所／岡本 壮平〕

先日、シドニーへ行く機会を得ました。駆け足で見て回っただけで私見の域を出ませんが、ウォーターフロントの動向について紹介します。サーキュラー・キー（ロックスからオペラハウス付近一帯）

サーキュラー・キーはシドニー湾の奥にあります。フェリーと地下鉄の交通結節点でビジネス街にも近く、日常の足として大勢の通勤・通学者が利用しています。同時に、歴史的地区ロックスと観光名所オペラハウスとを結ぶ場所にあり、観光客も多く周辺には高級ホテルが林立しています。そのため、港のほとりのカフェや緑地では、ビジネスマンや散歩する人、近くの幼稚園児などの「日常利用」と、観光客などの「非日常利用」とが複合しています。

### ダーリング・ハーバー

ダーリング・ハーバーはシティ（中心市街地）の西側にある港で、埠頭・上屋などの物流空間でしたが、近年、ウォーターフロントの再開発が進んでいます。展示場、会議場、商業施設、水族館、海洋博物館などが、コックル・ベイという小さな水域を囲みつつシティに連続する形



ダーリング・ハーバーの夜景：夕方になるとビジネスマンも観光客も集まってくる



キング・ストリート・ワーフの再開発：水族館の隣にオフィスと賃貸住宅が建つ

で集中的に立地しています。コンテナ埠頭に近い場所でも、倉庫を改装して通信系企業を集積した「海洋遺産センター」、倉庫跡にオフィスと賃貸住宅からなるモダンな建物を整備したキング・ストリート・ワーフなどが展開しており、物流機能から都市機能への転換が戦略的に進められているように感じます。ここは夜景の美しい新しい観光スポットですが、シティに近いことからビジネスマン等も日常的に利用しています。

ウォーターフロントは、ビジネスマンや買物客などの「日常利用」と観光客やレジャー客などの「非日常利用」とがうまくミックスされ、アクティビティの幅が広がることで、相互に刺激しあう魅力的な空間になっているようです。



サーキュラー・キー：市民の日常利用と観光客の非日常利用とが出会う場所

## アルパック (株)地域計画建築研究所

・本 社

URL:<http://www.arpak.co.jp> E-mail:[info@arpak.co.jp](mailto:info@arpak.co.jp)

・京 都 事 務 所 〒 600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82・大和銀行京都ビル 6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

・大 阪 事 務 所 〒 540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70・住友生命 OBP プラザビル 15F/TEL(06)6942-6732 FAX(06)6941-7478

・名古屋事務所 〒 460-0008 名古屋市中区栄 3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル 13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925

・東京事務所 〒 186-0001 東京都国立市北 1-1-17・田畑ビル 3F/TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室 /TEL(03)3226-9130

・九州事務所 (株)よかネット 〒 810-0001 福岡市中央区天神 1-15-35・ホンダハビエ 5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673